

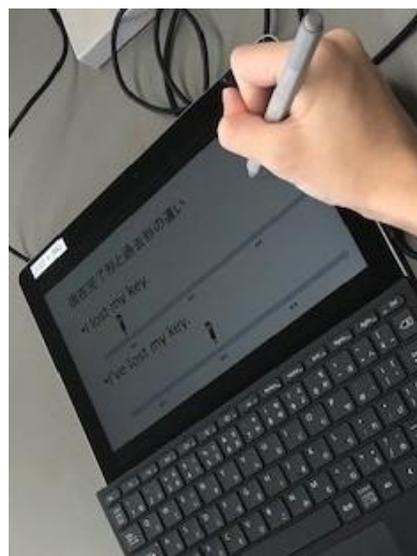
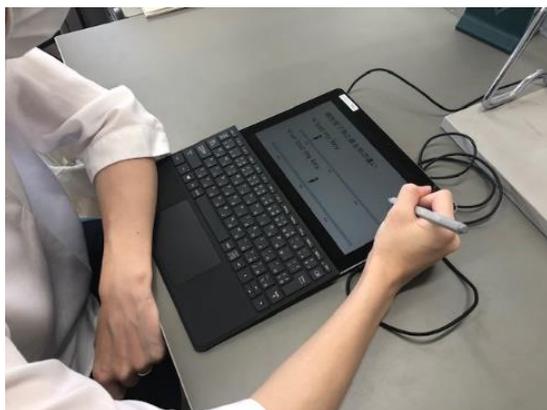
今回は、新型コロナウイルス感染症対策の中で行われた 英語科 の取り組みに関し、お伝えいたします。

## ◇ その1 自宅待機期間の課題

シラバスに基づいて、本来の授業で行う予定に近い形で、学習が進められるように、課題を提示した。しかし、一方的な指示にとどまり、生徒の取り組み状況をチェックすることが難しかった。また、語学の特性上、コミュニケーション活動を取り入れたいが、自宅では、それも困難である。

## ◇ その2 web会議システムを利用したオンライン学習支援

オンライン学習支援では、双方向のコミュニケーションが取りづらく、文法の解説が中心となった。読解の授業では、プロジェクターや書画カメラを使って、様々な工夫をした。例えば、説明のスライドは、図や写真を用いて視覚的にわかりやすいよう配慮した。また、問題演習の際にも、生徒のテキストと同じページを表示し、考え方や解答を書き込みながら説明した。しかし、生徒の反応がわかりにくく、どうしても、一方的な解説にならざるを得なかった。



## ◇ その3 対面授業再開後の対応

オンライン授業で学習した内容の理解度は、小テストを行うことで確認し、さらにその復習をして定着を図ることができた。オンライン授業をスムーズに視聴できなかった生徒に対しては、補足説明を行った。

## ◇ その4 現状と今後の課題

教科の特性上、コミュニケーション活動は重要なので、現在は、感染予防対策を取りながら、ペアワークなども行っている。

3年生は、進度の遅れを取り戻すために、スタディサプリも取り入れている。今後は、万が一、また生徒が登校できない状況になった時、それに迅速に対応できる体制を整えておく必要がある。